



大臣

14
A 304



乙秘第七九三号
公用局

八月十日

秘書官

俱備部会ニ於テ別紙ノ通定定ニ明十一日三大臣ノ便宜送
達スル答ナリト云フ

(別紙)

総理大臣松方正義君閣下各府ハ紛伝割據互ニ隙ヲ窺テ
部分攻撃取替ヲ逞シクシ國政毫モ統一ヲ見サレ今日ニ
際シテ閣下ハ能ク総理大臣タルノ重任ニ耐エル者ナリ
ト思惟スル耶大蔵大臣松方正義君閣下財政ハ蒼乱シ経
済界ハ洶々トシテ人心一日モ其堵ニ安ンセサル今日ニ
際シテ閣下ハ果シテ能ク大蔵大臣タルノ重任ヲ完クシ
タシ者ナリト思惟スル耶夫レ閣下カ総理大臣タルノ器

天正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



識ニ非ラサルナリ天下風ニ公論アリ因下モ亦自反シテ
其任ニアラサルナリ其覺ルニ足ラン独リ財政ノ手腕ニ至
リテハ閣下自ラ其抱負ニ誇リ世論亦亦少ノ希望ヲ囑ス
ル者アリ以テラリ閣下其局ニ当ル處緩クハ戦后ノ財政
ヲ整理スルニ足ランカト然ルニ今日ノ状ハ何故ソヤ幣
制ノ改革ハ必スシテ閣下ノ維綸タルヲ妨ケサルハシ然
レハ幣政ヲ改革シタル所以ノ心術ニ於テハ天下舉ケテ
閣下ノ公徳ヲ疑フニ非ラズ乎公債ノ賣買ハ必スシテ
閣下ノ抱負タルヲ害セサルハシ然レハ公債ヲ賣買シタ
ル手改ニ於テハ天下舉ケテ閣下ノ無算ヲ悲シムニ非ラ
ズヤ岩寄路ニ助テ擢用シテ日本銀行ノ總裁トシム必
ラシモ閣下ノ信任タルヲ思サ、ル可シ然レハ三葉一派
カ其公器ヲ濫用シテ縦横財界ノ秩序ヲ攪乱シテ私利ヲ

管ムニ汲ミタルニ至テハ天下舉ケテ閣下ノ通謀ヲ憤ル
ニ非スヤ阿嗟何ソ財政手腕ヲ以テ一世ニ高シトスル閣
下ニシテ而カモ其政徳ノ低ク且ツ卑シキヲ其レ此ノ如
ク甚シキヤ輿論意ノ如クナラスト云ハ、巨萬ノ財ヲ散
シテ新例記者ノ良心ヲ買収シ議會意ノ如クナラスト云
ハハ復タ直ニ黃金ニ訴ヘテ代議士ヲ買収シ其勢ノ卦ヲ
所一世ヲ駭テ德義魚ク節操魚ク廉耻ナク堅剛ノ士凡ハ
殆ントト世ヲ松テ尽タルニ至ラシム所謂國家古來滅亡ノ
主因タルモノハ閣下豈ニ深ク其政ヲ求メスシテ可ナラ
ンヤ今ヤ乃チ士風ノ壞敗ハ既ニ其極ニ達シ而シテ財政
ノ紊乱ハ正確ノ実業家ヲシテ怨嘆ノ声高巷ノ間ニ滿タ
レム此レ皆ナ閣下ノ其責ニ當ルハキモノニシテ上ハ以
テ聖明ニ有キ下ハ以テ國民ノ付托ニ合ハサルノ罪亦大

ナリト謂ハサル可ラス生等公志痛ク憂國ノ感ニ耐ヘス
敢テ本書ヲ奉呈シテ閣下カ沈痛ナル反者ヲ促サント欲
ス嗚呼閣下ヲ知ル者ハ其レ唯黄金守閣下ヲ累スル者ハ
夫レ唯黄金守閣下ヲ以テ特ニ閣下ノ僚友タル大
隈重信高島鞆之助ニ閣下ヲニ警告スル所アリ
明治三十年八月十日

自由俱樂部總代

龍野周一郎

利少鶴松

菅原傳

中野寅次郎

井上毅二郎

外務大臣大隈重信閣下カレ國家ノ失政ヲ度キ大臣ノ
臆職ヲ臨テ以テ其進退ヲ促カヌカ如キハ固ヨリ國民
ノ名譽ニ非ラヌ又國家ノ面目ニ非ラサルナリ然レ其
失政ハ既ニ已ニ中外ニ暴露シテ國家ノ面目カ有メニ
傷キ國民ノ名譽カ有メニ辱カシメテ列國ノ視聽有
シテ尙大臣ノ無能無力ニ集中スルニ及テハ内乃チ憂
國憂世ノ士奮テ以テ一世ノ清議ヲ鼓シ死生ヲ抛テ彈劾
ノ途ニ奔走スルハ亦莫ニ已ムヲ得サルナリ閣下ハ蓋シ
外務大臣ノ重職ヲ担テ堂々タル我戰勝后ノ面目ヲ空シ
クシタル者ナリ然ラズンハ則チ閣下ノ外交ノ尙ニ當テ
レシヨリ果シテ一事ノ成功ヲカニ奏シタル者アル歟日
露協商ニ於ケル露兵ノ入韓ハ是レ成シテ閣下ノ成功ニ
ハ非ラサル可シ而シテ新幕内ノ改正ハ忽チ併國ニ蹴キ

外務大臣大隈重信閣下カレ國家ノ失政ヲ度キ大臣ノ
臆職ヲ臨テ以テ其進退ヲ促カヌカ如キハ固ヨリ國民
ノ名譽ニ非ラヌ又國家ノ面目ニ非ラサルナリ然レ其
失政ハ既ニ已ニ中外ニ暴露シテ國家ノ面目カ有メニ
傷キ國民ノ名譽カ有メニ辱カシメテ列國ノ視聽有
シテ尙大臣ノ無能無力ニ集中スルニ及テハ内乃チ憂
國憂世ノ士奮テ以テ一世ノ清議ヲ鼓シ死生ヲ抛テ彈劾
ノ途ニ奔走スルハ亦莫ニ已ムヲ得サルナリ閣下ハ蓋シ
外務大臣ノ重職ヲ担テ堂々タル我戰勝后ノ面目ヲ空シ
クシタル者ナリ然ラズンハ則チ閣下ノ外交ノ尙ニ當テ
レシヨリ果シテ一事ノ成功ヲカニ奏シタル者アル歟日
露協商ニ於ケル露兵ノ入韓ハ是レ成シテ閣下ノ成功ニ
ハ非ラサル可シ而シテ新幕内ノ改正ハ忽チ併國ニ蹴キ

横田トノ改正案未タ緒ニ執クヲ見ス是レ亦皮ニテ閣下
ノ成切ニハ氷ヲカハ可シ況マ其就職ノ日列國公使ノ同
詰ニ遭フテ閣下力在野中ニ於ケル一切ノ對外硬軟ヲ取
消シタハカ如キハ最ニ是レ閣下ノ成切ニハ氷ヲサハレ
ニ其他閣下力輕卒ナル無数ノ葦言ハ尽ク事實ノ翻語ヲ
現ハシ来リテ大臣ノ威信全ク地ニ墜テ列國ノ不信日々
益シ甚シク遂ニ排日本ノ氣漸ハ在昇至ル以テ火ノ如ク
ナルヲ見レトス是レ皆十閣下ノ成切ニハ氷ヲサハレシ
凡ソ外務大臣トシテ此ニ一アルモ猶ホ能ク吾輩ノ友者
ヲ加ヘテ善義憤重ノ往ヲ忽ニ不可キヒアラサルナリ亦
何ソ之レヲ以テ其過ヲ文リ其氷ヲ撤ヒ彼言堂決竟ニ國
家ヲシテ屈辱ノ深淵ニ墮ラシムルヲ彼ノ布哇事件ノ如
キ失体ヲ招クヘケンヤ此レ則チ閣下ノ能魚力ハ決

布哇事件ニ觸レテ國家者メニ其ノ屈辱ヲ極メタリト謂
ハサル可カラズ抑々布哇ハ武装ナキ一弱小國ニシテ而
カモ其端ノ起リシハ已シノ移民拒斥ニ外ナラス乃チ之
レニ處スル宜シク徒容トシテ其ノ理ノ在ル所ヲ明示シ
以テ沈黙ノ間ニ肩ヲ收ムヘキノ閣下ハ勝頭ヲ葦ニ声
色ヲ勵マシテ強硬ノ政策ヲ執ラレシハ全ク其失体ノ輕重
ヲ過リタル者ナリ然リト云フ政治家各々見ル所アリ條
硬ノ政策必クモ氷ナリト謂フハ氷ヲサハレ進ムニ強硬
ノ政策ヲ以テシタルモノハ其退ラテ亦宜シク強硬ノ策
ヲ以テシテ進退共ニ其政策ヲ一貫シ其底ヲ始終スルキ
ナリ是レ之レヲ外ニシテハ國家ノ面目ヲ保チ之レヲ亦
ニシテ政治家ノ信用ヲ維持スル所以ノモノハ之レヲ除
キテ他ニ在ラサハナリ果シテ出ラハ閣下其初ニ於テ強

腹ノ試練ヲ以テ布哇ニ望ム則チ能シ其政策ヲ一貫シ改
治家ノ徳ヲ完クセサルヲ得ンヤ其要求ノ断然布哇政府
ヨリ拒絶セラルル而シテ米布合保ノ儀ニ米田元老院ニ顯
ハル、ノ後ニ及ンテ忽チ倉皇其政策ヲ翻シテ外邦ノ仲
裁ヲ判ニ甘諾スト云フニ至テハ我帝國ノ屈辱以テ之レ
ニ加フルナリ而シテ閣下政治家タルノ信用ハ全ク毫髮ヲ
損メサテシトス斯クノ如クニシテ閣下尚且ツ伏願引責
スル能ハスレハ海内愛國憂世ノ士ハ豈ニ別ニ其皮ニテ
求ムルノ術ナシトセシヤ容月十八日生カ同志大ニ東京
ニ會聚シ漢乃チ本盾ヲ草シテ閣下ノ左右ニ奉呈スルノ
事ヲ以テ生等ニ囑任スル所アリ情實ニ血涙ニ勝ルモノ
ナリハアラス因テ閣下カ本書ニ對シテ沈痛ナル反省ヲ
垂ララシムテ願フ

明治三十年八月十日

自由俱樂部代
五人連名

外務大臣大隈重信殿

拓殖務大臣高島勲之助君閣下生カ同志近ク國事ノ日ニ
昨ナルヲ傍觀シテ頗ル憂憤ノ念ニ捺ハス今相議シテ以
テ本盾ヲ奉呈シテ閣下ノ反省ヲ得ント欲スルニ當
リ實ニ情逼テ嗚咽浩ルニ至ルカハ其ノアリ嗚呼台灣ノ
民亦皇化ニ入ル彼ニ何ノ罪アツテ我高官重吏ヲ彼ツテ
盜賊ノ兇害ヲ恣ニセシムルヤ夫レ新占創造ノ領土ニ魚
賴ノ走混入シ来リテ利ヲ貪リ志ヲ逞マスルハ或ハ勢ノ
強レサハルモノアルハシト雖モ能ク之レヲ憲制ニシテ嚴
肅シテ以テ良民ヲシテ導ニテ其業ニ就其生ニ安ンセシ

ムハキハ政治ノ要トスル所ニ以テアリスヤ高官其權ヲ挾
テ然ラズニシ重更其威ヲ殿リテ女ヲ管ムノ資トナス茲
ニ於テオ台湾ノ政廳ハ一更ニテ盜賊ノ巢窟トナルニ至
リシモノハ之レ誠ニ雄シノ果フヤ思フニ台湾ノ状態ハ
歴々中外ノ耳目ニ馳レテ復々掩ハント欲スルモ掩フ能
ハサルモノアリ快ニ畏シ多クモ皇上ヲシテ優渥ナル大
詔ヲ垂レサセ給フニ至ル生等眞苦殆ント細説スルニ志
ヒスト莫ク今日ニ於テ列國ノ疑惑ヲ解キ將來ノ物儀ヲ
絶タントスルニ此際ニ於テ宜シク閣下伏願引退シテ
以テ其責任ヲ明ニセラレテ切望セサルヲ得サル十
リ然ラズンハ則チ列國意外ノ物儀ヲ惹キ竟ニ國家首領
ノ深憂ヲ招クニ至ルヤ亦未タ知ル可ラサルナリ苟モ改
治家タル者ニシテ正義ノ何タルヲ解シ責任ノ一斑ヲ非

スルモノニシテ豈ニ台湾ノ如キ大失態ヲ演出シテ尚且
口恬然其賊ニ止マルカ如キモノアラシヤ閣下必スシモ
志士公憤ノ破裂ヲ待タズシテ時ニ及ンテ反省ノ實ヲ舉
ケヨ生等亦誠ヲ披瀝シテ持ニ此ニ進言ス
明治三十年八月十日

自由黨衆部總代
五人連名

拓殖務大臣高島鞆之助殿



秘
番外

八月十日

本日
乙秘第七九三号ヲ以テ及御報告スル

自由党青年大會ノ建議公開書ノ

前文三大臣ノ便宜送達云々ハ使テ

以テ送付スルノ意味ナル由

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

自由党の青年大会の交際公同書
前文三大臣の對面送達云々の事
自由党の青年大会の交際公同書
自由党の青年大会の交際公同書
自由党の青年大会の交際公同書

大臣
秘第七九五號

明治三十年八月十二日

自由倶楽部ノ公函状ニ就テ

親展封届トシテ有一館負ヲ決トシ三大臣ハ送達シタル自由倶楽部ノ公函状ハ強テ之ヲ実行セシムヘキ手段ノ存スルモノナク且亦今日迄是等手段トシテ決議セシトナレ只々輿論ノ全情ヲ惹クノ目的ニ外ナラス尤モ今則鈴水充義后塚重平ノ兩人が在京大臣ヲ訪問シ又極密顧問官ヲ歴尚シテ自由党ノ意思ヲ陳述シタルニ勝伯ノ如キ東久世伯ノ如キハ滿腹ノ全情ヲ表シ其他ノ人々ニ於テモ自己ノ意見トシテハ一モ述べタルトナキモ多クハ全情ノ意滿面ニ顯ハレ居リシト話シ合ヒリト云フ要スルニ自由党ノ素志ハ到底果シ得ルモノトハ党内ニ於テモ決シテ見極メザル所ナリト重氏他日外相ノ責任問題ヲ議會ニ提出スルノ見

之ナルヲ以テ其時ニ當ラバ今日ノ引退勸告ハ大ニ自由
党ノ先鞭ヲ濤ルニ足り且ツ實際議會演說ニ多少ノ効能ヲ
ルヤク復タ一ニハ自由党ガ今日大隈伯ノ外交失策ヲ默視
スル中ハ地方ノ人氣ヲ収ムル上ニ少ナカラザル影響ヲ及
ボスヘキヲ慮リ公開狀ヲ發セシモノニシテ今急ニ素志ヲ
果ス能ハザル時ハ如何スベシトノ一ハ何ニモ商議セシメ
ナシ